

会社概要

社 名／東洋合成工業株式会社
設 立／1954年（昭和29年9月27日）
本 社／〒272-0012
千葉県市川市上妙典1603番地
TEL：047-327-8080 FAX：047-327-8055
資 本 金／1,618百万円（2007年3月31日現在）
事業内容／有機工業薬品・有機溶剤等の製造並びに販売
画像形成用の感光性材料等の製造並びに販売
電子表示機器の材料等の開発、製造並びに販売
倉庫業、貨物運送取扱業
従業員数／337名（2007年3月31日現在）

事業所

本 社

〒272-0012 千葉県市川市上妙典1603番地
TEL：047-327-8080 FAX：047-327-8055

東京営業所

〒104-0032 東京都中央区八丁堀四丁目13番1号（八丁堀東興ビル2階）
TEL：03-3552-3200 FAX：03-3552-2575

ヨーロッパ営業所

Teleport Towers, Kingsfordweg 151,1043GR
Amsterdam, The Netherlands.
Phone：+31 (0) 20-491 9509
Fax：+31 (0) 20-491 7340

高浜油槽所

〒272-0125 千葉県市川市高浜町7番地
TEL：047-395-2151 FAX：047-396-7049

市川工場

〒272-0012 千葉県市川市上妙典1603番地
TEL：047-327-2121 FAX：047-327-8067

千葉工場

〒289-0623 千葉県香取郡東庄町宮野台1-51
TEL：0478-87-1111 FAX：0478-87-0333

感光材研究所

〒270-1609 千葉県印旛郡印旛村若萩四丁目2番地1
TEL：0476-98-3361 FAX：0476-98-3364

プロセス開発研究所

〒289-0623 千葉県香取郡東庄町宮野台1-57
TEL：0478-87-1525 FAX：0478-87-0333

千葉第二工場

〒289-0623 千葉県香取郡東庄町宮野台1-55
TEL：0478-87-1701 FAX：0478-87-1721

環境レポート 2007

ENVIRONMENTAL REPORT

お問い合わせ先

東洋合成工業株式会社 経営企画部 環境安全室
〒272-0012 千葉県市川市上妙典1603番地
TEL.047-327-8075 FAX.047-327-8055
URL:<http://www.toyogosei.co.jp>

このパンフレットはエコマーク認定の再生紙を使用しています。
この印刷物は環境にやさしい植物性大豆油インキを使用しています。



 東洋合成工業株式会社

CONTENTS

環境方針

ご挨拶 1

サイトレポート 環境・安全に関する取り組み

市川工場 2

千葉工場 3

高浜油槽所 4

感光材研究所 5

環境に対する影響

大気・水質 6

PRTR 7

エネルギー 8

廃棄物及び再資源化 9

環境への取り組み 10

労働安全衛生の取り組み 11

化学品の安全管理及び最近の動向 12

地域社会とのコミュニケーション 13

環境方針

東洋合成工業株式会社は電子産業の部品製造材料の生産、有機溶剤の精製、リサイクルならびに化学品の合理的な物流等を通して、社会に貢献しております。我々はその企業活動の中で地域社会に対する環境負荷の低減を常に指向し、地域社会のみならず地球環境の保全に全力を傾倒いたします。

1. 目標

環境保全活動の取り組みは経営の重要課題の1つと位置付け、各事業所では環境影響評価を重視し企業活動を推進いたします。即ち「この地球環境を健全な状態に保ち、将来の世代に引き継ぐ」

2. 法の遵守

環境保全法の遵守は勿論のこと、地域社会の要求事項に対しても真摯に取り組み、環境の保全に努めます。

3. 具体的な取り組み

- 1) 生産活動の中で、大気、河川に放出する化学物質の低減を最優先課題とし、改善の長期計画を作成しそのプログラムに沿って毎年低減させます。また環境への負荷、排出量を公表いたします。
- 2) 蒸気、電力の消費を節減し、毎年生産される製品のエネルギー原単位の低減に努めます。
- 3) 廃棄物の発生量削減と、自社内での無害化処理を促進し、廃棄物の3R (Reduce, Reuse, Recycle)を推進いたします。
- 4) 新規化学物質の生産については法の遵守のもとに、従業員の健康に及ぼす影響とともに環境に対する評価も十分に行い、その結果を公表いたします。
- 5) 生産される製品の収率を向上させることにより、原料、エネルギー、時間など全ての要素の効率を高め、省資源化に努めます。

東洋合成工業株式会社 代表取締役社長 木村正輝

ご挨拶

2006年の冬は、暖冬で日本全土降雪量が少なく、山岳部の積雪も少なかったと記憶しております。しかし、春の雪解けには、山の雪が解け、河川にせせらぎが戻って参りました。夏には、太陽がジリジリ照りつけるでしょう。その時、人々は昨冬の山の雪が少なかったことを悔やみ、都市は大変な湯水に見舞われるのではないかと、そんな心配を抱いております。これも人間の営みが作り出す、炭酸ガスによる地球温暖化の影響ではと考え、四季折々の変節を聞き及ぶにつけ、製造業としての環境への取り組みの重要性を再認識している次第でございます。

さて、57期の弊社の環境安全の取り組みでは、気体を対象に取り組んで参りました。幸いにも、市川工場周辺の香料材料による臭気対策装置、千葉工場製造工程で発生していた揮発溶剤を回収する焼却炉設置は、日常作業の改善、適切な設備の設置などによりスピーディに稼働し、大きな効果を発揮し、各環境は大きく改善されました。

今期は液体を対象に取り組んで参ります。弊社が生産に使う液体資源は、歩留まり向上により年々生産品あたりの使用量を削減して参りましたが、更に使用済み液体から有価物を回収・再使用することにより、省資源化、省エネルギー化に積極的に取り組んで参ります。継続的な日常の生産による改善だけでなく、新規装置の設置やプロセスの見直しにより、液体の材料、反応溶媒や反応触媒のリサイクル化を実現し、新規で使用する原材料の低減に取り組んでおります。また、今年は従業員の健康増進にも取り組んでおります。近年増加の一途を辿る発がんリスクや成人病の温床となるメタボリック・シンドローム対策が対象となります。

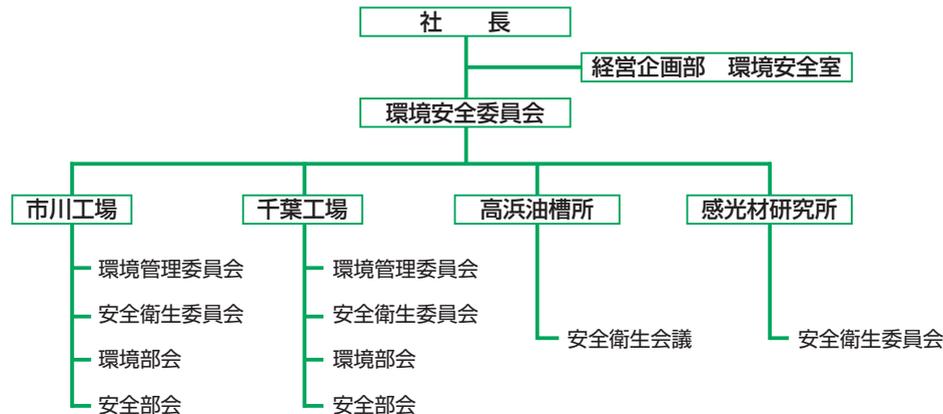
本年初頭、市川工場生産グループの従業員1名が若くしてがんに侵され、闘病空しく帰らぬ人となりました。会社の仕事を愛しながら、若くして世を去った彼の無念を思うと、焼香の知人は涙を禁じ得ませんでした。このような残念な思いを減らせるように、がん予防の健康診断に一層力を注いで参ります。

一方、俗に言う肥満体の人が、近年老若を問わず増加しております。このメタボリック・シンドロームの改善は、がんの予防と共に会社の施策だけではなく、問題を持つ当人の日常生活の改善や社会的な取り組みも必須であります。弊社では、従業員と一致協力して、実効ある施策を実行していく所存でございます。



東洋合成工業株式会社
代表取締役社長 木村正輝

環境・安全管理の組織



市川工場 千葉県市川市上妙典1603番地



臭気測定



移動式スクラバー



市川工場長
古御堂 千秋

◆臭気物質の大气への発生抑制

市川工場では香料材料を製造しており、臭気の強い物質を取り扱っております。2006年度は、臭気の発生源に対し、以下のような対策を実施しました。

- ①原料・製品の出入荷時に発生する排出ガスを抑えるため、ペーパーリターン配管をタンクに増設しました。
 - ②ドラム充填所に活性炭吸着設備を設置したことで排ガス濃度が50分の1以下になりました。
 - ③タンク洗浄時の臭気拡散を抑制するため、タンクの底板を改造し、残液が極端に少なくなりました。
 - ④タンク洗浄時の臭気を除去するために移動式スクラバーを配備しました。
 - ⑤香料材料合成設備の排ガス排出口に活性炭吸着設備や凝縮設備を設置し、大気への拡散量を削減しました。
- 一方では、毎日、工場周辺の臭気モニタリングも実施しており、その結果にも臭気対策による削減効果が裏付けられています。2007年度についても継続して臭気対策を行ってまいります。

◆産業廃棄物の削減

2007年度は、廃水処理場の負荷を安定化させ、処理量を増やせるよう設備投資を行います。また、廃液発生源での分別、生産工程の改善を行って今まで廃液業者に出していた産業廃棄物を極力、自社処理していきます。

◆安全衛生の取組み

2006年度から労働安全衛生マネジメントシステム（OSHMS）を導入しました。安全衛生活動への組織的な取り組みができる体制となり、潜在的危険性を除去・低減することにより、災害を未然に防止するリスクアセスメントを強化してきました。2007年度は、システムのPDCA（計画、実施、監視、改善）が回るように定着を図っていきます。また、ヒューマンエラーによる事故を防ぐのに有効である指差呼称をしっかりと身に付け、確信の持てる仕事を続けていきます。

◆ベンゼン排出量の削減

PSA設備設置により2006年度のベンゼンの大気排出量は、4.8t/年まで削減することができました。2007年度は、ベンゼンを使用する製品の生産を中止するため、排出量はゼロとなります。



活性炭吸着設備

千葉工場 千葉県香取郡東庄町宮野台1-5-1



燃焼設備



多重効用缶



千葉工場長
小暮 憲治

◆ジオキサン大気放出削減対策

当工場では、感光材の製造時にジオキサンを使用しています。PRTRで公表された2005年度の当社のジオキサン大気排出量は約23トンでした。

社内では、発生源対策を目的としたジオキサン調査・対策プロジェクトを発足してVOC（揮発性有機化合物）濃度測定器を用いて発生源調査を行いました。得られたデータに基づきジオキサンを多く含む排ガス発生箇所の特定を行いました。

2006年9月にこの排ガスを燃焼炉へ吸引して燃焼させてしまうVOC燃焼設備を導入しました。その結果、吸引ガス中のVOCが削減されました。

当工場では、今後もあらゆる面から環境への負荷低減に向けて積極的に取り組んでいきます。

◆省エネ対策

2006年4月改正省エネ法が施行されました。当工場では、原油換算で燃料及び熱と電気ともに3,000kl/年を超えており、第一種エネルギー管理指定工場に指定されています。改正法により次の3点が義務付けられています。

- ①エネルギー管理者選任義務
- ②中長期計画書の提出義務
- ③定期報告書の提出

そして年平均1%のエネルギー消費原単位の低減を目標として技術的かつ経済的に可能な範囲で諸目標および措置の実現に努めていきます。

当工場は、2006年11月 省エネ委員会を設置して省エネ活動をキッ

クオフしました。エネルギー使用の合理化対象機器としてボイラー、冷凍機、冷水塔を選んで管理標準の作成を開始しました。今期は、蒸気流量計と排ガス酸素濃度計を購入してエネルギー使用状況の把握・評価を行います。

◆3Rの推進

当工場では、環境保全活動の一環として3Rの推進を進めています。3Rとは

- ①Reduce（廃棄物の発生抑制）
過剰包装による包装資材の削減、過剰洗浄による発生廃水量の削減を進めていきます。
- ②Reuse（再使用）
装置洗浄で使用した溶剤を精製無しで再利用できないか検討しています。
- ③Recycle（再資源化）
これまで外注廃液処理していた廃液を工場内蒸留設備で溶剤回収を行い、回収した溶剤は灯油の代替燃料として使用し、残った排水は生物処理で処理することで完全場内処理を行うことができます。

◆蒸気ドレン回収対策

当工場の蒸留設備のうち、2基の蒸留塔と多重効用缶は、それぞれドレン回収ラインを有し、その蒸気の約90%を回収しています。それに対して、その他の蒸留塔にはドレン回収ラインが無いため、当工場のトータル蒸気ドレン回収率は約60%でした。2006年度にすべての蒸留塔と一部の多重効用缶にもドレン回収ラインを設置してトータル蒸気ドレン回収率90%以上を達成しました。

高浜油槽所 千葉県市川市高浜町7番地



1000KL断熱塗装タンク



ドラム充填機



高浜油槽所長
石亀 義之

◆VOC排出対策

2006年はオールステンレス製の1000KLタンク4基を増設しました。環境に配慮しVOC発生量抑制のためペーパーリターン配管の設置をしました。2基については断熱塗装を施し温度変化による呼吸量の削減をしました。また今後計画する発生量の削減策として、ペーパー発生状況を把握するためタンクデータ表示盤を設置し、各タンクのデータをパソコンのシステムに取り込み、VOC対策の新技術導入のための基礎データが採取できるようにしました。

◆廃棄物の削減(再利用)活動

高浜油槽所では産業廃棄物の排出削減と資源の有効活用のため、廃油の種類、発生量を把握して分別回収を行い再資源化の推進を図っています。その結果2006年度は廃油の50% (44t) を市川工場のボイラー燃料として再利用 (Reuse) することができました。

◆作業環境の改善

ドラム充填所は省力化と作業者の安全衛生を考慮し全自動充填機を採用しています。

2006年度は「揮発性の高いもの」「有害性の強いもの」「臭気の強いもの」に対応し作業者を保護するため、充填中の発生ペーパーが拡散しないように充填機の周囲をパネル等でカバーしブロワーでスクラパーに排気する設備を試験導入しました。

◆安全衛生管理

当油槽所では定期的に運送会社を集め安全研修会を実施しています。2006年11月はローリー運送会社29社、参加人員37名に参加していただきました。

今回はローリーの安全荷役作業のため、作業前の確認チェックをダブルチェックとし、指差呼称で声を出し、しっかりと指で指し示す訓練をしました。また積み込み数量指示が容量 (KL) と重量 (KG) の2種があるため、比重の季節変動誤差が少ないように、実比重換算システムを取り入れたことを説明し、過充填防止対策等の災害予防を徹底するための協力体制を呼び掛けました。



安全研修会

感光材研究所 千葉県印旛郡印旛村若萩四丁目2番地1



GHS教育



千葉県危険物安全大会受賞盾



感光材研究所長
山中 智隆

◆安全への取り組み

感光材研究所では、感光性化合物だけでなく、機能性を有する多くの化学品の研究開発を行っています。

感光材研究所の主なテーマは新規化合物の研究開発であるために、新規化学品原料に関しては、MSDSを入手し、危険性を十分認識した上で使用方法を決定しています。

当社開発品に関しましても、お客様への安全性に関する情報としてMSDSを提供しています。法律で定められた危険有害物質 (労働安全衛生法の通知物質、化学物質排出把握管理促進法の指定物質、毒劇物取締法の毒劇物) に限らず、すべての製品と開発品についてMSDSを発行しています。

新規化学物質の届出、海外の化学物質規制動向等、化学製品・製品安全に関する教育を実施しています。労働安全衛生法の改正で2006年12月から特定の化学物質についてGHS (化学品の分類及び表示に関する世界調和システム) による表示・文書交付制度が施行されるのに伴い、2005年度よりこれへの対応とGHSに関する社内教育を開始しました。

2006年6月9日に開催された第16回千葉県危険物安全大会におきまして、感光材研究所は、多年にわたる危険物による事故防止に多大な尽力をかけていることが高く評価され、優良危険物取扱所として会長表彰を受賞しました。

◆地域への取り組み

感光材研究所におきましては、一年に一度近隣小学校の小学生及びその保護者に研究所内を見学いただき、当研究所の安全性に対する取り組みを説明しています。

今後も継続して安全に努め、地域社会の一員として地域の発展に努めていきます。



いには野小学校見学会

◆大気に対する負荷

市川工場では、蒸留精製部門、香料材料部門とも前年度より装置稼働率が向上し、それに伴いボイラーの稼働率も4%向上しました。SOx、ばいじん量は副生油の燃焼を促進（前年度比10%増）した結果、重油依存度の低下によりSOxが約10%、ばいじんは7%低減しました。稼働率の向上に伴い、燃料由来より熱由来のNOxは増加しました。来期は空気比を検証しNOxの低減にも努力いたします。

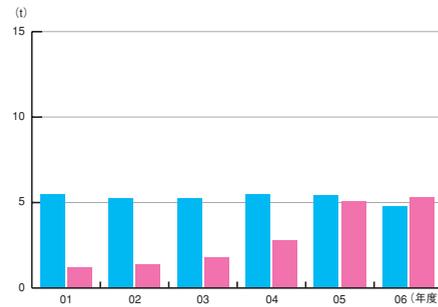
千葉工場は蒸留部門を増設しましたが、多重効用缶等の採用により燃料消費量を抑制しました。しかしながらSOx、NOx、ばいじんは前年度を上回る結果となりました。

◆水質に対する負荷

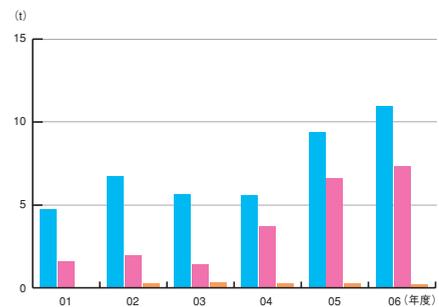
市川工場のCOD負荷は2006年に廃液の発生源と廃液の種類の見直しを行いました。この結果、従来廃液処理業者に委託していた廃液を自社の施設で処理することが可能となり処理量が増えたことにより、COD負荷も前年度比約20%増加しました。

千葉工場のCOD負荷量は2006年度多重効用管の蒸発水をボイラー水に使用することで排出水量の削減となり、COD総量は減りました。

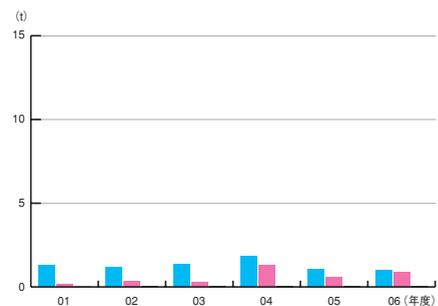
■SOx排出量



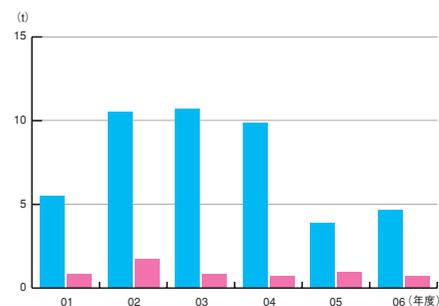
■NOx排出量



■ばいじん排出量



■COD負荷

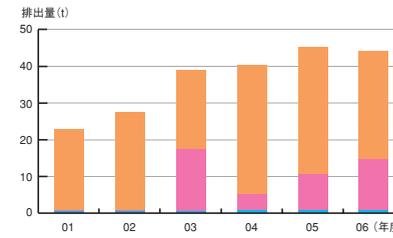


■市川工場 ■千葉工場 ■高浜油槽所

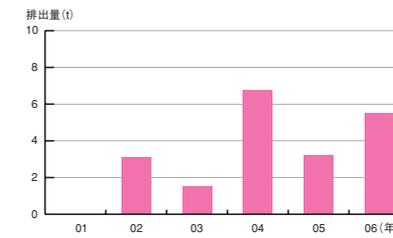
市川工場は、臭気対策の実施によりPRTR対象物質の大気排出量も減少傾向が見られました。その中でベンゼンについては、大幅な大気排出の削減を達成しました。また、千葉工場ではベンゼンの大気排出量が増加しました。これは、感光材第二工場の新設に伴い、ベンゼン取扱量の増加によるものです。高浜油槽所では、大気排出量の測定方法の改善により、正確な測定値を採取することが可能になりました。

2007年度は、さらなるVOC発生量の削減に努めていきます。

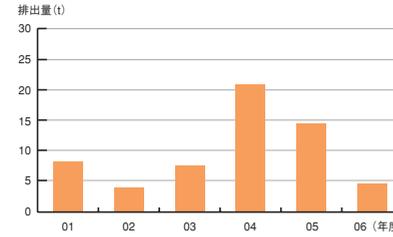
■トルエン



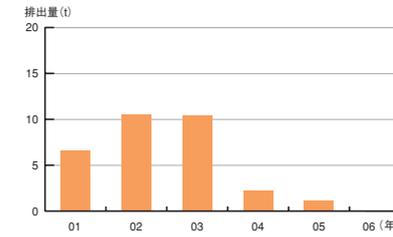
■クロルメタン



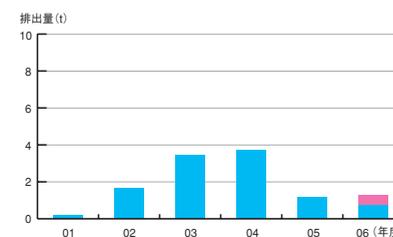
■キシレン



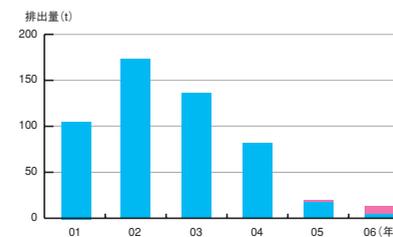
■メタクリル酸メチル



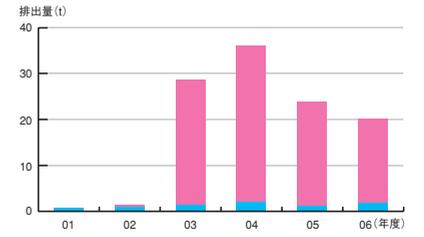
■N,N-ジメチルホルムアミド



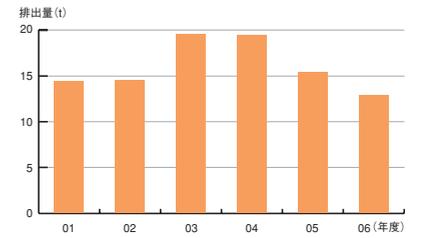
■ベンゼン



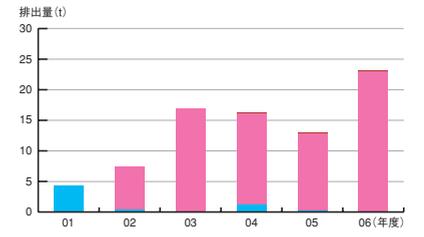
■1,4ジオキサン



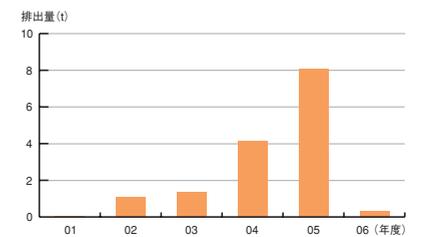
■酢酸ビニルモノマー



■ジクロロメタン



■アクリル酸エチル

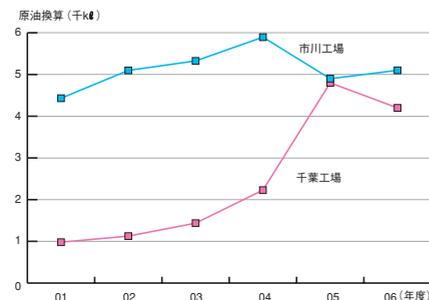


◆燃料等の消費量

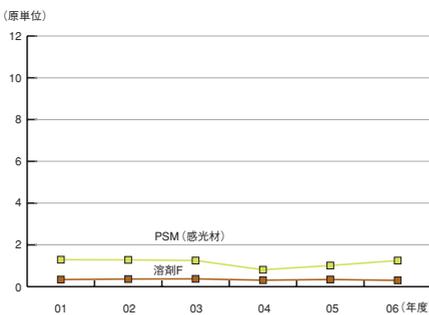
2006年度市川工場は稼働率の向上により、前年度比約3%燃料の消費量が増えました。また原油価格等の影響を少なくするため生産工程から排出される廃油を積極的に燃料化し前年度比10%増の廃油を燃料化しました。

2006年度千葉工場の燃料消費量は、前年度同様に推移しています。

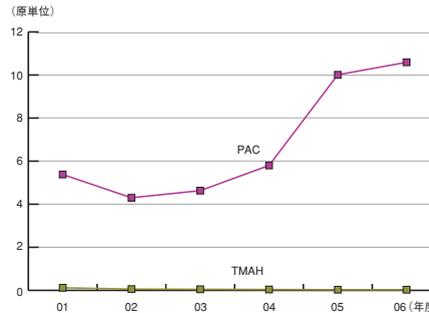
■事業所別 燃料等消費量の推移



■市川工場 燃料等原単位の推移



■千葉工場 燃料等原単位の推移

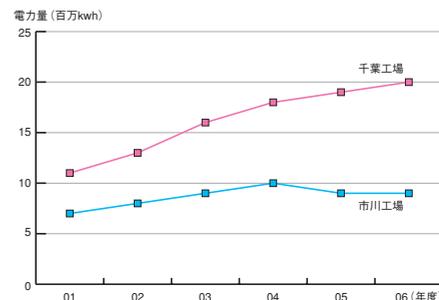


◆電力の消費量

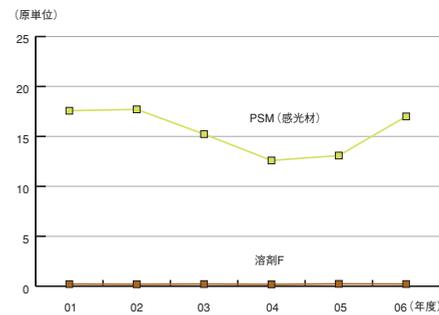
市川工場の電力消費量は、生産効率の見直しで冷凍機を導入したことによる増加と、感光材の生産を千葉工場へ移管したことによる減少要因等があり、トータルでは前年度比3%減少しました。またサイト内の生産部門以外でも節電に努めた結果、わずかですが前年度を下回り効果が現れました。

2006年度千葉工場の電力消費量は、前年度同様に推移しています。

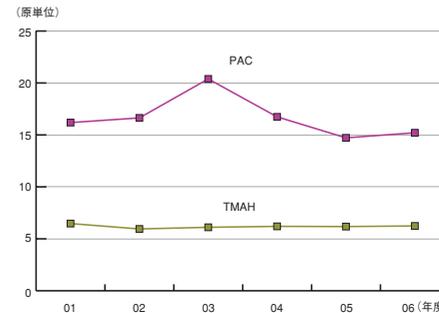
■事業所別 電力消費量の推移



■市川工場 電力原単位の推移



■千葉工場 電力原単位の推移

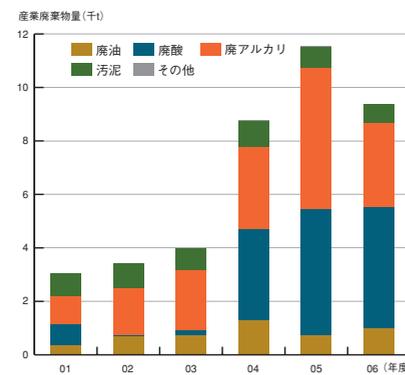


◆「廃棄物の取り組み」

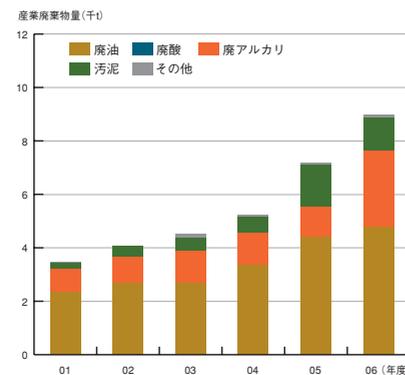
市川工場では前年に引き続き、自社で処理できない水溶性の廃油が排出される香料材料の品種の生産及び生産量が多かったため、廃油が前年度比約30%増加しました。その他、廃酸、廃アルカリ等については感光材の生産を千葉工場に移管したため前年比大きく減少しました。引き続き排出元での減量化を継続し、廃棄物の削減に取り組んでいきます。

千葉工場では新規製品の増加に伴う、廃油排出量の増加がありました。千葉第二工場の稼働開始により、廃アルカリ排出量が増加しました。新規製品の製造に伴う廃油排出量の削減を目指していきます。

■市川工場の廃棄物量の推移



■千葉工場の廃棄物量の推移

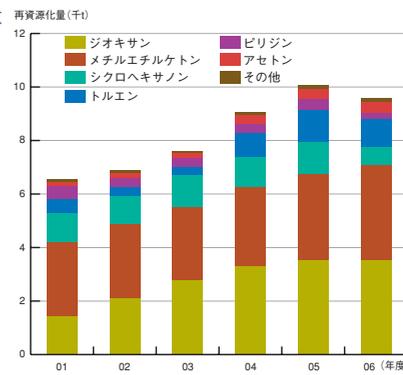


◆「再資源化の取り組み」

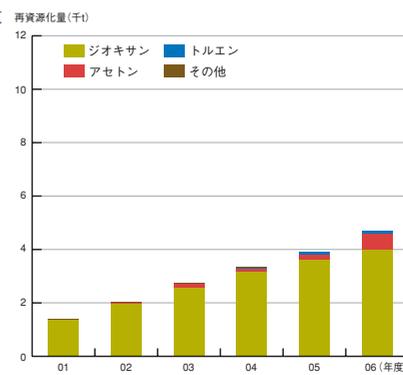
市川工場の再資源化品は一部再資源化品については市況の影響もあり減少しているものもあり、合計では前年度比約5%減少しました。再資源化はVOC規制等により今後も増加傾向にあり、効率的な回収と再利用を進めていきます。

千葉工場ではジオキサン/アセトンからのアセトンの回収量が増加しました。今後、千葉第二工場の稼働開始により、廃アルカリからの再資源化を計画しています。

■市川工場の再資源化量の推移



■千葉工場の再資源化量の推移



◆ジオキサン地下水汚染対策

千葉工場ではジオキサンによる地下水の汚染を起こし、その浄化、拡散防止などの対策を進めてきました。その結果近隣の井戸水の水質は改善される傾向になりました。一方我々の対策と、改善施策について、あるいは井戸水の水質について近隣住民の方々とそのリスクについてコミュニケーションを実施しました。

また新たに拡散防止策の一環として大気放出ガス（有機溶剤）を捕集し、燃焼処理するためのVOC燃焼炉を新設し、稼動を開始しました。それらの装置の稼動状態を近隣住民の方に見学していただき、我々の取り組みに対して相互の理解を深めることができました。

独立行政法人産業技術総合研究所の「ジオキサンの詳細リスク評価」を編集された牧野さんを招聘し、ジオキサンが使用される工程、貯蔵の状況などを見学後、ジオキサンの有害性とリスクについて、意見交換を行いました。



近隣住民との対話



工場見学

◆VOC対策とSolution- ECOMA2006展に出展

グリーンケミカル事業部はECOMA2006（11月29日 パシフィコ横浜）に出展しました。大気汚染防止法が改正され、VOC（揮発性有機化合物）対策が高まる中、そのニーズにお応えする目的で出展しました。弊社で長年培われた有機溶媒の捕獲、回収技術を駆使して他社様の環境改善対策にも積極的に取り組みました。



ECOMA2006展

◆市川工場雨水分離対策

市川工場では長い間雨水の排水経路が一部プロセス排水と共通になっていました。大雨の時には、大量の雨水処理を余儀なくされ、処理が間に合わないで工場構内は水浸しになることが度々ありました。そこで56期、57期の2年計画でその是正を行い、法を遵守した雨水の放流が可能になりました。

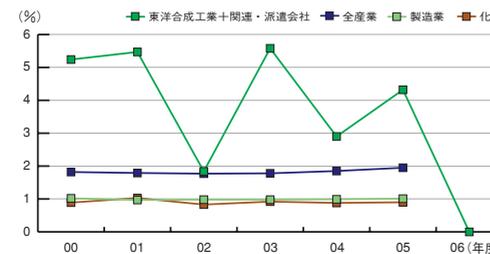


雨水分離層

労働安全衛生

当社では、無事故・無災害を目標に、設備の安全対策、安全運転、安全教育、また労働災害の発生防止対策に積極的に取り組んでいます。2006年度は休業災害（休業1日以上）が1件も発生しませんでした。

■労働災害度率の推移



* 度率率、強度率共に、当社で勤務する関連会社・派遣会社社員を含んでおります。

- ・清掃美化運動への参加
市川港開発協議会が主催し、本社及び市川工場が立地する市川港付近の清掃・美化活動に積極的に参加し道路沿を中心に清掃を行いました。
近年、ドライバーのモラルの低下が目立ち、心無い人たちの車からゴミのポイ捨てが多くなりました。
我々は、協議会主催の清掃・美化運動以外にも独自に本社・工場付近の清掃を定期的に行っています。

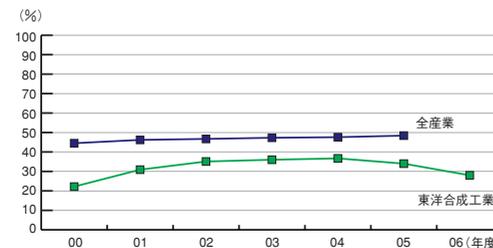


市川港開発協議会清掃活動

健康管理

当社では社員一人一人が自分の健康状態を把握し健康を保持することが必要と考えています。

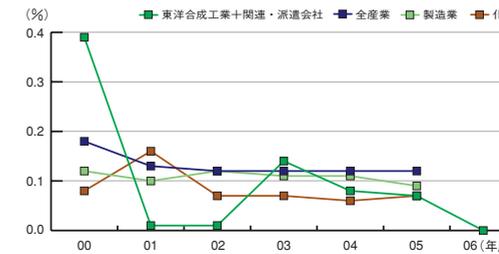
■有所見率の割合の推移（業種別）



- ・禁煙マラソン大会の実施：
現在、学術的に喫煙による癌の発病リスクは非喫煙者の2倍に達しているとの報告があります。
2005年11月より社員の健康促進の一環として、喫煙者を対象に禁

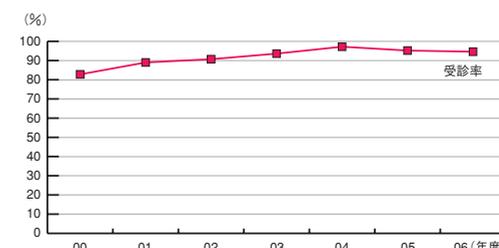
そのため、度数率が前年実績を大きく下回る結果となりました。今後共、無事故・無災害を継続できるように安全教育の徹底を推し進めていきます。

■労働災害強度率の推移



このために、まずは定期健康診断を全社員に受診してもらうことを目標に掲げていますが、2006年度の受診率は昨年度より低下し、94.6%となりました。

■定期健康診断受診率推移



煙マラソン大会を実施しました。参加者は12名。そのうち5名の方が完走しました。この禁煙マラソン完走者には報奨金と参加費分配金合わせて6万円が贈られました。

◆千葉第二工場の竣工と環境対策

千葉第二工場は稼動に先立ち、土壌汚染対策法に則り、土壌汚染の状況を把握し、改善しました。また、製造工場と一体の自動ラック倉庫による物流、仕込み作業の省力化、耐蝕に配慮した材料・工法の採用、VOC回収設備の設置、スクラバーの騒音対策として騒音防止壁の採用等工程の合理化、環境安全を追求した工場として完成しました。



第二工場竣工式



騒音防止壁

◆労働安全衛生法/GHS

労働安全衛生法が2005年11月に改正され、世界的に統一して使用することを目的とした化学品の取扱に関する国連勧告であるGHS(化学品の分類と表示に関する世界調和システム)が取り入れられました。この改正にかかる政省令等が2006年10月に告示され、この労働安全衛生法が2006年12月1日に施行されました。この告示で特に重要なところとしては、国連勧告に対応した表示及び文書通知対象物質の拡大、裾切値(カットオフ値)の見直しによりCMR物質(発ガン性、変異原性や生殖毒性等とみなされる物質)が従来に増して厳しい基準の採用、それによる分類が求められることになった点にあります。

当社では、GHS対応委員会の設置、社内教育の実施を通し、GHS製品ラベルに対応し、またMSDSに関しましては、対応すべきものから順次対応しています。

◆欧州 REACH規則

EUでは、REACH規則(化学品の登録、評価、認可及び制限に関する規則)が2006年12月18日に欧州閣僚理事会で採択され、2007年6月1日に施行されます。これにより既存化学物質をEU域内で1t/年以上製造・輸入する場合には、既存化学物質は新規化学物質と同様に規制されることになりました。

- このREACH登録に対処すべき一連の作業としては
- ①製造・輸入者(製造業業者、輸入業者、代理人)の確認
 - ②対象物質のリストアップ(直近3年間の製造・輸入量)の確認や高懸念物質であるか否かの確認
 - ③登録する/しないの判断(登録に要する費用見積、サブライチェンでの情報収集、情報の共有、代理人の選定)
 - ④予備登録の準備と実施(2008年6月1日より11月30日)
 - ⑤登録の準備と実施(CSRの作成、物質交換情報フォーラム(SIEF)への参加、登録の実施)
- 等が挙げられます。

当社は香料材料製品をEUに輸出しており、この影響を受けることとなりますので、対象製品の輸出先企業のリストアップ、直近3年間の輸出量の把握、危険有害性データ等の収集、またEU輸入先と協議し対応する作業を進めています。

◆欧州 RoHS指令

EUでは、公布されていましたがRoHS指令(電気および電子機器への特定有害物質の使用制限規制)が2006年7月より施行されました。この指令では、販売される電気・電子機器に対して鉛、水銀、カドミウム、六価クロム、臭素化難燃剤を実質的に含有しないことを求めています。当社は、原料としての素材を提供する立場からRoHS指令に対応し、電気・電子機器などの業界が実施するグリーン調達の実現のために積極的に協力しています。

◆HPV/LRI/Japanチャレンジプログラム

日本化学工業協会が参加する国際化学工業協会(ICCA)が提唱する国際的な枠組みのなかで高生産量化学物質HPV(High Production Volume)プログラム及びLRI(Long-range Initiative)プログラムによる既存化学物質の安全性の点検作業が進められ、また国内でも官民連携した既存化学物質安全性情報収集・発信プログラム(Japanチャレンジプログラム)に基づいて産業界と国が連携し既存化学物質の安全性情報の収集プログラムが進められています。このように既存化学物質の安全管理が求められる時代となり、このデータの収集、共有等が不可欠となっています。当社は、テトラメチルアンモニウムヒドロキシドについてHPVプログラムの一員として参加し、その結果は2006年4月SIAM21にて安全性評価報告書で報告されました。またLRIへも参加し、支援しております。今後とも当社は、このようなプログラムに積極的に参加するよう努めていきます。



ソニーグリーンパートナー

◆ちば環境再生基金への募金活動!

当社では、ちば環境再生基金への寄付及び募金活動を2005年から実施しています。この基金は千葉の自然環境の保全と再生を推進する資金として活用されています。当社は2006年11月に、この活動に貢献したことを認められ、千葉県環境財団より感謝状をいただきました。



千葉県環境財団感謝状

◆東庄ふれあい祭り

千葉工場では『東庄ふれあい祭り』に2004年から参加しています。毎年何千人もの参加がある大きなお祭りです。文字どおり東庄町の人々の、また、そこに根ざす企業と町民との「ふれあい」の場となっています。当社もイベントを実施し、社名ロゴ入りガス風船や、防災グッズのプレゼントを行いました。



東庄ふれあい祭り

◆日刊スポーツ杯争奪野球大会出場

千葉工場では昨年に引き続き産業機械健組合の代表として日刊スポーツ杯に出場しました。昨年は初参加にもかかわらず準々決勝までコマを進めました。今年も昨年の好成績を信じて部員は真夏の猛練習に取り組んできました。しかし、結果は初戦敗退の憂き目に会いました。今大会の教訓を次回に繋げ来期こそは好成績を残したいと思います。



日刊スポーツ杯争奪野球大会

◆地球環境保護及び交通事故防止キャンペーン

当社では2005年より環境保護及び事故防止運動を積極的に推進するため種々のキャンペーンに参加しています。キャンペーンの内容は地域の学校へ掲示板を贈呈し、社会・スポーツニュース写真を毎週配信し、校内掲示に役立ててもらっています。2007年3月にも新たに橘小学校へ掲示板を贈呈しました。



地球環境保護キャンペーン

◆印旛村主催テニス大会出場

感光材研究所が所在する千葉県印旛郡印旛村では毎年テニス大会が開催されています。当社研究員も4年前より参加しています。今までは予選突破どころか1勝もできず悔しい思いをしていましたが、ついに初勝利を味わうことができました。その後1勝1敗の結果で予選リーグ2勝1敗で2位となり、念願の予選突破を果たし決勝トーナメントへ進みました。しかし、決勝ではいいところが無く総合4位の成績で終わりました。



印旛村主催テニス大会

◆人材育成寄付

当社では地域社会の人材育成の重要性を認識し、千葉県香取郡東庄町の奨学基金事業への協力を2000年から進めてきました。その功績が認められ、東庄町表彰条例に基づき2006年7月表彰されました。



第26回東庄町表彰条例表彰受賞記念